

2024年2月15日

デジタル行財政改革 課題発掘対話

インターネット投票に関する 課題発掘対話

～ “投票率が低い20代” の一人からの提言～



古野 香織 Furuno Kaori

- 認定NPO法人カタリバ職員（みんなのルールメイキング事業担当）
- 足立区選挙管理委員（令和5年～）
- 中央大学学生サークル「Vote at Chuo!!」立ち上げ人
- 大学在学中に「18歳選挙権」が実現したことをきっかけに、10・20代の投票率向上・主権者教育等に関心を持ち、現在も活動を続ける。

ご提案①（投票前の段階）

📍 **在外投票の手続き簡素化**により、
海外からでもスムーズに投票ができるような仕組みに。

- 令和3年執行の衆議院議員選挙では、コロナ禍で初めての国政選挙であったこともあり、**在外選挙における「郵便投票」で、国際郵便が止まっているまたは遅延している国・地域があり、投票用紙が期日までに選挙人に届かない状況などが全国各地で発生。現行法の問題が指摘されている。**
- ある地域の選挙管理委員会に問い合わせたところ、選挙管理委員会事務局に送付された在外投票用紙については、受理の手続き等は職員一人で処理せず、必ず職員2名体制で行っている。**投票数はそこまで多くなくても、国外への郵送費、人件費など一定のコストがかかっている。**
- 不在者投票の制度と同様、在外投票制度の仕組みも煩雑であり、有権者としてもハードルが高い。

実際にあった声

- 海外留学中、赴任中の在外選挙の手続きがとても面倒だった。
- そもそも在外投票制度を知らなかったので投票できなかった。

ご提案②（投票前の段階）

📌 **不在者投票の手続き簡素化**により、住所変更をした学生や社会人が、投票に行きやすい環境を。

- 18歳選挙権が決まり、初めての国政選挙となった2016年夏の参議院選挙後に、大学生約1000名を対象としたアンケートを実施。その結果、投票に行かなかった理由で最も多かったのは**住民票の問題**であった。また一人暮らしの学生のうち、76%もの学生が住民票を現住所に移しておらず、そのうちの64%が投票を棄権していた。※2016年当時
- 全国どこからでも、マイナポータルのオンライン申請サービス「ぴったりサービス」を利用でき、不在者投票の電子申請ができるように整備いただきたい。
- 不在者投票の制度が煩雑であり、また2度の郵送によって時間がかかるため、住所変更をした学生や社会人は投票棄権に繋がりやすい。ネット投票で、タイムラグの解消に繋がるのでは。

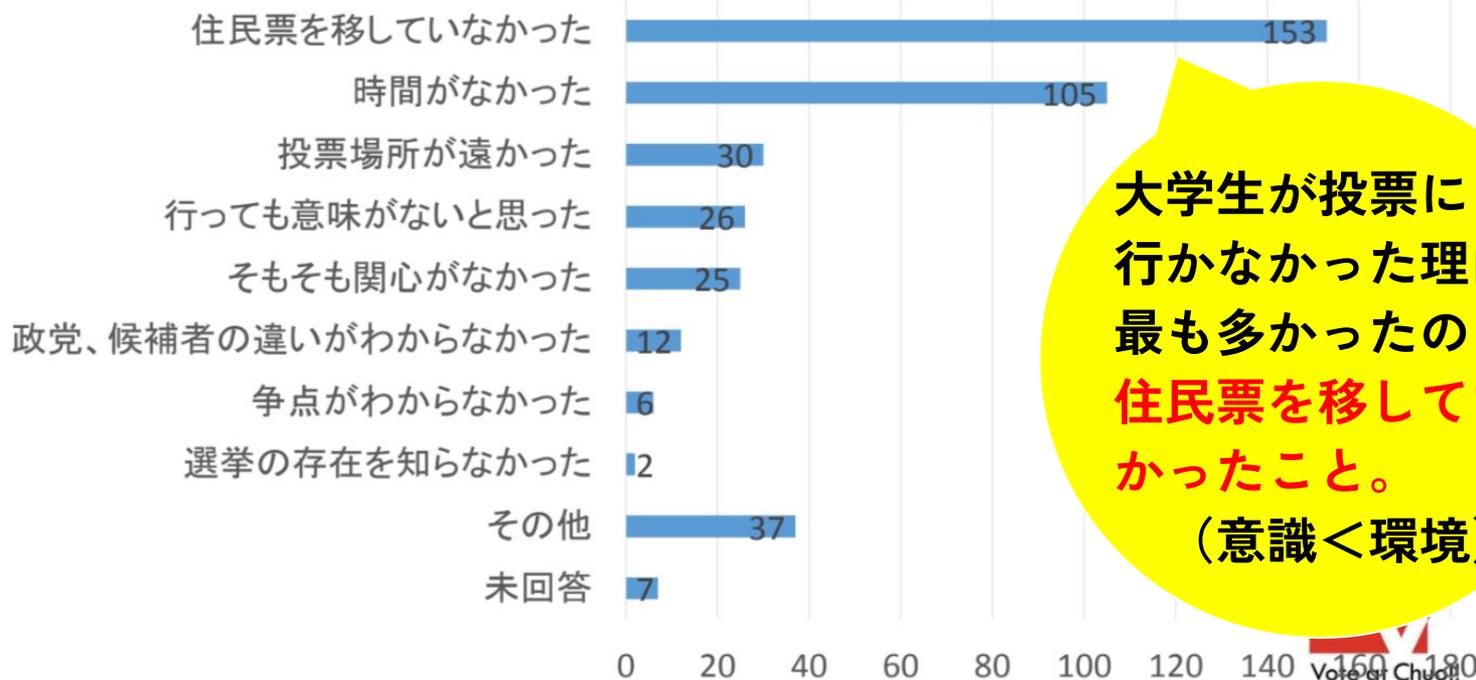
実際にあった声

- 不在者投票の申請に、紙を印刷し、切手を貼り、申請書を郵送する方法が煩雑で、諦めた。
- 不在者投票の制度を知ったときには、在籍地の選管から「間に合わない」と言われた。
- 不在者投票宣誓書を記入し、郵送で送付したが、返送されて手元に投票用紙が届いたのが切10分前。その日は間に合わず、投票をあきらめた。

ご提案②（投票前の段階）

不在者投票の手続き簡素化により、住所変更をした学生や社会人が、投票に行きやすい環境を。

Q5 投票に行かなかった理由を教えてください(複数回答可)



大学生が投票に行かなかった理由で最も多かったのは、**住民票を移していなかったこと。**

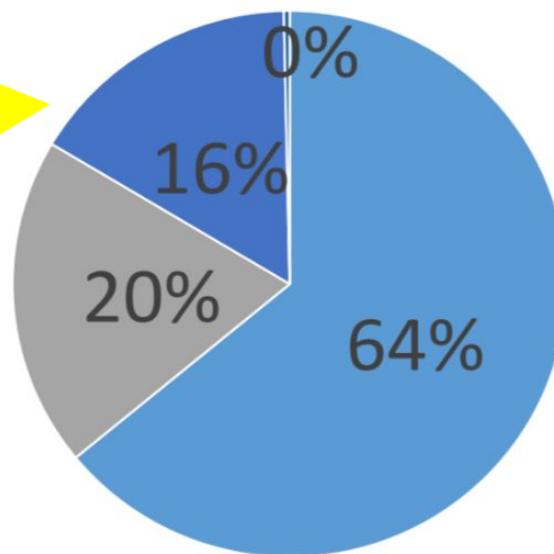
(意識<環境)

ご提案②（投票前の段階）

- 不在者投票の手続き簡素化により、住所変更をした学生や社会人が、投票に行きやすい環境を。

住民票を移していない人(292人)の投票方法

不在者投票の利用は
わずか16%のみ。



選挙時、住民票を
移していなかった
学生のうち、
64%が投票を棄権。

■ 棄権

■ 地元で投票

■ 不在者投票

■ 未回答



ご提案③（投票時の段階）

📍 インターネット投票の実現により、大切な個人情報を保護。誰もが安心・安全な環境で投票できるように。

- 投票所では、投票券がない場合、選挙人名簿との照合のため、氏名・生年月日・性別などが口頭で確認される場合、知られたくない個人情報が、他者に知られてしまうリスクがある。
- また他者から外見で性別を判断されることや、下の名前を呼ばれることについて、心理的負担が大きいという声も。
- インターネット投票が進むことで、特定の事情で投票所に行けない人が投票できるだけでなく他者に知られたくない個人情報を守り、心理的安全が確保された状態で、投票をすることができるというメリットもある。

実際にあった声

- 投票所で性別を見た目で判断されて、運営の方がボタンを押して赤か青のボタンが光る機械は、精神的にハードル高かった。また本人か不安なときに、下の名前をはっきり呼ばれて確認されたのも心理的に辛かった。
- 生年月日を読み上げられ、個人情報が知られてしまうのではと心配になった。
- シェアハウスに住んでおり、住人の住所が分かっている状態。投票所では身分証を求められることもないため、他の人が成りすましてしまうのではないかと心配になった。

※足立区では、令和3年の都議会議員選挙から、氏名の読み上げを廃止。

「赤と青のボタン」（選挙人の男女別内訳を投票録に記載するボタン）については、平成21年から廃止。

ご提案④（その他の観点）

- 📌 子育て、土日出勤、ケガなど「投票に行きたくても行けない」若者層も存在。インターネット投票により、“見えない格差”を是正する

🗣️ 実際にあった声

- 土日出勤があり、平日も期日前投票所が空いている時間に帰宅するのが難しい。やむを得ず平日の仕事を調整してもらい、ギリギリ投票所に滑り込んだ。
- まだ小さい子どもを2人連れて投票所に行くのは一苦勞。

ご提案⑤（その他の観点）

- 📌 マイナポータルアプリ、LINE等からのプッシュ通知で「投票忘れ」防止。更なるリスクヘッジにも。

🗣️ 実際にあった声

- マイナポータルアプリの認証などで選挙のお知らせを電子化してほしい。
- 自宅に、他の人の「投票券」が届いたことがある。これさえあれば投票できてしまうので、心配になった。選挙の案内は、オンライン化した方が良いのではないか。

ご提案⑥（その他の観点）

- 選挙ポスターの電子化・オープンソース化で、候補者・支援者の負担を減らし、有権者にとっても見やすい選挙情報へ。

実際にあった声

- 初めて選挙に立候補した時、紙のポスターを1枚ずつ貼りに行くのが本当に大変で、驚いた。番号が決まり次第、一齐に電光掲示板に映し出す等の工夫はできないか。
- ポスター貼りやポスティングの際、紙の地図を渡され、とても非効率だと感じた。
- そもそも家の近くにポスター掲示板がない。どこにあるのかわかるようにしてほしい。
- 立候補者が多く、上段のポスターが見えなかった。手元でも閲覧できる工夫ができないか。

最後に

- 全世代で最も投票率が低いのは20代、次いで10代と、いずれも若者。若者の投票率向上は、長年喫緊の課題であり続けている。
- 特に若い世代は、さまざまな行政手続きのデジタル化が進む一方、投票所へ足を運ぶことへの心理的ハードルがさらに上がる可能性も。
- 子育て世代や働く世代など、行きたくても行けない若者層も存在。
- 20代の一人として、在外投票に限らず、不在者投票、期日前・当日投票などの環境下においても、より一層の利便性向上に期待したい。

